

# SHIN CLUB 233

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「NC BUILDING」 撮影：阿野太一



「シンシア表参道」 撮影：的野弘路

## 今月のトーク/monthly talk

### 変化は住宅から

今月は、神宮前に立ったコンクリート打ち放しの2件のビルのご紹介です。「NC BUILDING」は表参道の東側の小道で、長年飲食店を営まれていたご一家のビルへの建替え工事です。お住まいを上層階に、テナントを下層階に設け、ご自身の経営されるお店も2階に入りました。「シンシア表参道」は以前近隣で弊社が施工させていただいたビルの建て主様が、今回も新たなビルの工事をご依頼くださった物件です。こちらは、青山通りから西側に少し入ったところ、デザインをこだわった小さな店舗ビルが住宅街への道に並んでいます。

「シンシア表参道」の設計者、松崎峻氏（スーパービジョン）は渋谷桜丘町で30年以上、設計事務所を主宰されてきました。神宮前では今回の現場近くのカレリアアーツビルやCROCSビルを手掛けられました。しかし、2年ほど前、息子さんのお嫁さんの実家が女所帯になって物騒だということで、息子さんの誘いもあって、さいたま市見沼区に多世帯住宅を建てることになり、今は息子さん世帯、お嫁さんのお母様世帯、そして松崎さんの思いが詰まったアトリ工兼住居にお住まいです。野菜が植えられている家庭菜園があり、高台のため他所から視線もはならず、2階建てのアトリ工は北と南の2つの庭に挟まれてとても過ごしやすそうです。70歳も超えられ、今回を機に桜丘町の事務所から完全に大宮の自宅事務所に拠点を移されました。

「大学卒業後戸田建設に入社、31歳のときに日大の同期で黒川紀章建築都市設計事務所に勤めていた北村昌三と独立しました。住まいも同じ中央線沿線で、渋谷ですと一緒仕事をしてきました」と松崎さん。住宅は基本だということですが、最近の若い人の仕事で気になることがあるとおっしゃいます。コンピュータの弊害か、手描きができない人が多いと感じるそう。それに設計の最初の段階でCADで詳細まで描き過ぎ、

「もっと大まかに全体を捉えてから詳細図に下りていけど、我々は習ったものです」とおっしゃいます。坪や尺の単位も実感としてわかっていない人もよく見かけるので、何とかしたいと感じられています。「家を建てるということは、ロマンでしょう。作家の林芙美子は、『放浪記』などで知られていますが、女学校を出ているけど、建築の学校で学んだわけではない。でも落合に自分の家を建てようと勉強して、本を250冊読んだそうです。山口文象に設計を依頼しましたが、本人もその辺の設計者には負けないくらいに詳しくなり、素晴らしい邸宅を建てました。その後10年しか住めなかったけれども、幸せだったと言っています。だから僕なりに建築史などをまとめて、若い人に伝えたいことがたくさんあるんですね」

「それからこの地域には『見沼田んぼ』という大きな緑地があってとても魅力的なところなんですよ」と松崎さん。『見沼田んぼ』とは、徳川時代からの治水事業で開拓されたもので、農地を守るために「三原則」が定められ、開発が抑えられてきましたが、農業後継者不足が進み、現実にもそぐわなくなってきました。今は「農」の多面的・公益的な機能が再評価されているため、さいたま市では、独自の『百万人の「農」-さいたま市農業振興ビジョン-』を打ち出しています。

「僕は、老人の街なんかがいいかな、と考えています。一人暮らしの老人が集まって暮らす。元気な人はそこで農業支援などの仕事もできます。そんなことをいろいろ考えさせてくれるのもここに引っ越してきてから。考えたら、住まいを変えるってとてもいいことだと思うんですよ。アメリカ人なんかは移動に抵抗ない人が多いでしょう。仕事を変える、お金の付き合い方・人との付き合い方を変える。そんなことも、まず住宅から変えるっていうのもいいかと感じます。夏目漱石は80回、家を変えたそうですからね」と新たな意欲を刺激されているようです。

## NC BUILDING (神宮前6丁目プロジェクト)



南側外観。表参道の通りの緑が見える



西側。手前階段はオーナー経営の2階飲食店へ

### 次世代へ繋ぐために配慮された機能とデザイン

長年、表参道で飲食店を営まれてきたご夫婦の自邸と店舗の建替え計画である。隣地に建つ親戚の経営するビルに意匠を合わせ「景観に配慮したい」とRC打ち放しのビルを希望された。1~3階に5つの店舗、4・5階がオーナー自邸であり、2階店舗の1つにオーナーが経営する飲食店が入る。1・2階の店舗は1フロアを乾式間仕切りで2つに分割しており、フロア貸しも可能である。

南と西の道路に対して交互に壁面を後退させることで生まれるバルコニーは、外部環境との接続を生むほか、RC造の手摺を逆梁の構造体とすることにより幅の大きな開口部の実現に寄与している。

小さな建坪の中にオーナー自邸、オーナー店舗、4つの賃店舗、設備スペース、それぞれの専用アクセスを詰め込んだ。規模のわりに動線が占める割合が大きいように思えるが、各店舗への来客者とオーナーの生活との交錯を避けつつ、店舗の利便性や設備機器のメンテナンス性を確保するために必要な操作であった。

半世紀以上住み続けた土地への配慮と街の未来を創りたいというクライアントの意思に共感し、ここに建つ建築も未来を見据え、時の経過に耐えるものにするべきであると考えた。

(山下真平氏 談)



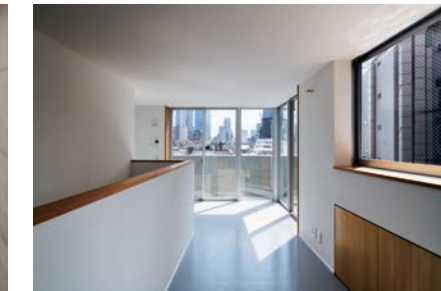
西側道路を表参道側から臨む



1階店舗から通りを見る



3階。幅の広いバルコニーと一体となる空間



5階。南側テラスを通して渋谷のビル群を臨む

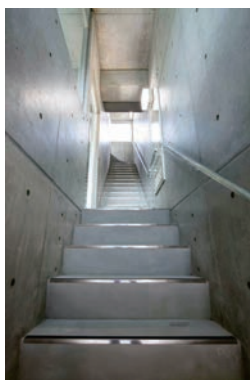
北側階段。テナント、住宅へのアクセス

所在地：渋谷区 構造：RC造 規模：地上5階 用途：店舗・事務所・住宅  
設計・監理：山下真平 / 山下真平建築設計事務所  
施工担当：岡本 竣工：2019年5月 撮影：阿野太一

## シンシア表参道



北西側全景。青山通りから入った住宅街に建つ



建物右側の階段で上層階へ

### コンクリートとガラスで解放感のある建物を

建て主は以前、この近くで自宅のビルの施工を辰にゆだねた経験があり、その信頼が今回の施工に繋がっている。敷地は、青山通りから西に入った住宅街の一角で静かな通りだが、個性的なデザインのビルが並んでいる。

コンクリート打ち放しの耐震性重視のビルは、1階には飲食店の入居も可能なようにピットを設け、通りに向けてガラスの壁面をいっぱい開いた明るい建物を考えた。

上層階への階段室には、ガラス壁を、1階の奥には木の塀を設けて、打ち放しのコンクリートのハードな印象を和らげている。東側の隣接するビルの壁面には藁がたっぷりに広がり、2、3階の大きく開いた東側の窓から緑が入り込んでくる。

テナントの内装が入るので、デザインできるインテリアは限られていたが、トイレ、ミニキッチンにはサンワカンパニーのスタイリッシュな水栓・カーンなどを採用した。

(松崎峻氏 談)



1階。突き当りに木の壁、東側上部に開口部



2階。階段室にはガラス窓を設けて明るさを生み出す

所在地：渋谷区 構造：RC造  
規模：地上3階 用途：店舗  
設計・監理：松崎峻 / スーパービジョン  
施工担当：綿貴・大平  
竣工：2019年5月  
撮影：的野弘路



ヴェネチア・ビエンナーレ  
国際建築展帰国展  
「家の外の都市の中の家」  
(展示設計・監理)  
撮影：architecture  
WORKSHOP

# Shimpei Yamashita



山下真平氏。五反田の事務所にて 撮影：アック東京

今月は、神宮前の「NC BUILDING」の設計者、山下真平さんにお話を伺います。

—山下さんは、横浜国立大学大学院を修了後、当時横浜国大の教授をされていた北山恒先生主宰の architecture WORKSHOP に9年間在籍されて、弊社もいくつかの仕事で現場担当者がお世話になっています。横浜国大の建築意匠系OB会「円錐会」の役員もなさっていますが、大学は東京理科大学を卒業されていたんですね。

山下:そうですね。大学で建築の勉強を始めて、最初に出会った建築家がシーラカンスの小嶋一浩さんでした。大学で受けた講義の中には小嶋さんの建築思想が詰め込まれていて、非常に大きな影響を受けています。小嶋さんはご自身が京都大学から東京大学の修士課程に進まれた方で、「外に出た方がいいよ」と話されていたのが横浜国大大学院への進学を考えたきっかけです。大学院では北山さん、西沢立衛さんの設計スタジオをとる他、今は無くなってしまいましたが、みなとみらいにあった北仲 WHITE（歴史的建造物をオフィス・アトリエ・ギャラリーに転用した暫定的創造空間）で社会に開かれた環境の中で建築を学ぶ機会を得る事が出来ました。またこの頃、北山さんがY-GSAを立ち上げる準備をされていました。

Y-GSAは建築家を養成する日本で唯一の大学院として2007年に創設されました。スタジオ制の教育方式を採用し、少人数制の教育により、濃密な設計教育を行っています。学生は、建築のスキルではなく、思想性のある建築のありようを学びます。(横浜国立大学大学院Y-GSA HPから)

Y-GSAが始まる以前の横浜国大大学院では、1年目にある程度単位を取ると2年目はかなり暇になるわけです。本格的に修士論文に取り組み始めるまでは学生コンペに参加したり、設計事務所でアルバイトをしながら過ごしていました。大学院修了後、これから就職活動を始めようと考えていた時期も architecture WORKSHOP でアルバイトをしていたのですが、北山さんから新規プロジェクトの模型製作を頼まれた事もあり、それならスタッフとして採用を検討いただきたいとお願ひし、そのまま9年間お世話になりました。

## 山下真平 (やましたしんぺい)

1981年 山梨県生まれ  
2004年 東京理科大学理工学部建築学科卒業  
2007年 横浜国立大学大学院修士課程修了  
2007年～2016年 architecture WORKSHOP 勤務  
2016年 山下真平建築設計事務所設立  
2016年～2018年 横浜国立大学大学院Y-GSA 設計助手

## ■ architecture WORKSHOP 在籍時の主な担当プロジェクト

2009 専用住宅「dada house」  
2010 集合住宅「祐天寺の連結住棟」  
2011 ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展帰国展「家の外の都市の中の家」  
2012 コーポラティブハウス「四谷の集合住宅」  
2014 コーポラティブハウス「目黒アパートメント」  
2015 都市交流施設「道の駅 保田小学校」  
2015 テナントビル「キャピタル原宿」  
2017 テナントビル「原宿TWビルディング」

私自身はY-GSAで学ぶ機会はありませんでしたが、architecture WORKSHOPへ入所後、北山さんや後輩からその話を聞いていました。在籍5年目の2011年には、前年に北山さんが日本館のキュレーションをされたヴェネチア・ビエンナーレ建築展の帰国展が開催され、展示デザインを担当しました。ギャラリーの壁一面にスタイロフォームで作った都市模型を展示したのですが、製作をY-GSAの学生に手伝ってもらいY-GSAの環境に触れる機会がありました。私は親族に教職が多い家系で、もともと教える仕事に興味はありましたが、この頃から独立後にY-GSAで設計助手をやりたいと具体的に考え始めていました。

在籍中はさまざまなプロジェクトを担当しましたが、木造、S造、RC造をすべて経験できたのは非常に運が良かったです。そして在籍9年目の年末にY-GSA設計助手の募集に応募したところ、採用いただける事になり独立することになります。当時担当していた神宮前の「原宿TWビルディング」は実施設計の途中でしたが、引き続き竣工まで関わらせていただきました。

独立後は自身の仕事に取り組み傍ら、Y-GSAでの教育にも携わり、同じタイミングで円錐会の役員参加のお声がけもいただきました。一般的には独立すると今まで在籍したチームを離れて一人になるわけですが、その時にY-GSAや円錐会のように開かれた環境に身を置けたのは非常にありがたいことでした。そこでは様々な建築家の方々に会う事ができますし、多様な思想に触れることができます。

architecture WORKSHOPで得られた経験は私にとっての大きな財産ですが、独立後は今までの経験を踏まえつつも、自分のやり方を模索しなければいけません。そんな状況で大きな刺激をもらえましたが、今まで自分がいた環境を客観的に見つめ直すことができました。Y-GSAでの仕事は2018年の秋で任期を終えましたが、また機会を与えていただければ、大学での建築教育には携わりたいと思っています。

今までを振り返ってみると、社会に開かれた環境の中に身を置くことが新しいプロジェクトに巡り会う機会を作ってくれているように思います。Y-GSAや円錐会での取り組みから得られたものもありますし、「NC BUILDING」のプロジェクトもそういった面が少なからずあります。神宮前ではarchitecture WORKSHOPで担当した「キャピタル原宿」、「原宿TWビルディング」から継続して、今回で3件目の設計・監理となったわけですが、先日「NC BUILDING」でお会いした方から神宮前の指名コンペにお誘いをいただき、取り組んでいる所です。

—そのときはまた弊社に工事をご依頼いただきたいと思います。本日はありがとうございました。

写真左:「キャピタル原宿 2015」  
写真右:「原宿TWビルディング」(2017)



就活中の皆様

『社長の言葉・社員インタビュー』を動画でごらんいただけます！！

# こだわり建築がいっぱい、辰のHPをぜひご覧ください

http://www.esna.co.jp/ 「建築屋辰」で検索、または、下記のQRコードもご利用ください

**採用ページ** をクリック、採用サイトへ移動

用途別メニューをクリックすると用途別の実績がみられます。

動画が8月からアップいたしました。

建物名や建築家、構造、規模、所在地など好きなキーワードを入れて検索、建物の写真と詳細記事を読むことができます。

サイドメニューからでも例えば、設計者名をクリックすると、全ての物件が出てきます。さらにその物件名をクリックすると建物の記事がご覧いただけます。

毎月「SHINCLUB」のトップ記事4本をアップ。  
バックナンバーは上段メニュー「SHINCLUB」からPDFでご覧いただけます

**編集後記**

・長い梅雨が明け、猛暑の季節になりました。今年は、8月10日（土）～16日（金）まで、夏季休業とさせていただきます。

(株)辰通信 Vol.233 発行日 2019年8月10日 編集人：松村典子 発行人：岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450  
E-mail : daihyo@esna.co.jp URL : http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。  
バックナンバーも掲載しています。  
http://www.esna.co.jp/shinclub  
スマホはこちらから →

